

科目名	文学国語		履修学年	第3学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	「新 文学国語」(三省堂)			
使用教材 (出版社)	「新 文学国語 学習課題ノート」(三省堂) 書いて覚える漢字練習ノート(株式会社啓隆社)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
教科担当者から				
情景の豊かさや心情の機微を表す語句に触れ、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることを目指す。また、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取り組み状況	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	8 想像と創造 文学の想像力を捉える	○			・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	B 8
				○		・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	
					○	粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	5～6	表現ブラザ5 表現の宝さがし	○			・文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。	B 8
				○		・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。	
					○	粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
		前期中間考査	○	○			A1
	7～8	9 作品の変貌 言語文化の可能性を追求する	○			・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	B 8
				○		・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	
					○	粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	9	表現ブラザ6 言葉でスケッチ	○			・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。	A 6
				○		・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	
					○	粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
後期		前期期末考査	○	○			A1
	10	10 文学の普遍性① 時代を越えて生きる古典文学を温(たず)ねる	○			・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	B 10
				○		作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	
					○	・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	
		後期中間考査	○	○			A1
	11～12	11 文学の普遍性② 空間を越えて生きる翻訳文学の価値を見つける	○			文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	B 10
				○		・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	
					○	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	
	1	12 文学の普遍性③ 自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る	○			文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	B 6
					○	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	
	2～3						
		学年末考査	○	○			A1

科目名	国語表現		履修学年	第3学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	「国語表現」(大修館書店)			
使用教材 (出版社)	「国語表現 基礎練習ノート」(大修館書店) パスポート国語必携 国語常識の演習と確認五訂版(桐原書店)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科担当者から				
国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。(伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力) また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取組み状況	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	1 言葉で遊ぶ 2 無人島で生き残れ	○			・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。	A 4
				○		・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
					○	・話し合いによって課題を解決するゲーム的活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
	5～6	3 日常生活の正しい過ごし方 4 魅力的なポスターを作ろう	○			・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	A 10
				○		・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
					○	・ポスター作りに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
		前期中間考査					－
	7～8	5 「わが町自慢」のパンフレット作り	○			・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	B 12
				○		・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。・読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。	
				○		・読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。	
	9	6 働く人にインタビュー		○		・視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B 16
				○		・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。	
					○	・インタビュー活動に興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	
後期		前期期末考査	○	○			B1
	10	7 たほいやゲームをしよう 8 みんなで作ろう国語辞典 9 「私の虫類図譜」を作ろう	○			・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。	B 10
				○		・自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。	
				○		・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。	
		後期中間考査					－
	11～12	10 エッセイを書こう 11 演説合戦にチャレンジ 12 こちら悩みごと相談室 13 開廷！ 模擬裁判		○		・読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。	A 6
				○		・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。	
				○		・自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	
	1			○		・論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現のしかたを評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。	
				○		・話し合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を行い、その記録を基に話し合いのしかたや結論の出し方について批評している。	
	2～3						
		学年末考査	○	○			B1

科目名	政治・経済		履修学年	第3学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	最新 政治・経済（実教出版）			
使用教材 (出版社)	最新 政治・経済 演習ノート（実教出版） テーマ別資料 政治・経済 2025（東京法令出版）			
学習の目標				
広い視野に立ち、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正に判断することができる力を身に付ける。				
教科担当者から				
政治・経済では、政治や経済の分野における様々な課題を客観的に理解し、広い視野と深い考察力を養うことを目標とします。長い歴史の中で、人々は人間らしく生きるための権利をどのように獲得し、それをどのように発展させるのか、また人と人をつなぐ経済は、どのようにして地球規模で発展し、結びつきを強めているのか。21世紀を担う皆さんが、それらの課題を主体的に考え、共に生きていく社会をつくるにはどうすればいいのか、考えていく科目です。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を活用している。	政治、経済、国際社会にかかわる事柄から課題を見つけ、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の在り方について考えようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		○	○	
課題の取り組み		○	○	
提出物	○		○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4, 5	第1部 現代日本の政治・経済 第1編 現代日本の政治 1章 現代国家と民主政治	○		政治と国家、政府が何か理解している。	15	
				○	国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解・追究しようとしている。		
				○	民主政治のしくみと課題を理解し、権力分立と立憲主義について、その重要性も理解している。		
				○	国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治の課題について主体的に理解・追究しようとしている。		
				○	基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。		
				○	議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。		
	5, 6	2章 日本国憲法と基本的人権	○		日本国憲法の成立過程を理解している。	15	
				○	日本国憲法の三大基本原理が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追究しようとしている。		
				○	自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容について、各種判例も踏まえながら理解している。		
				○	自由権・平等権・社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。		
中期	6, 7	3章 日本の政治制度と政治参加	○		国会の役割や権限と運営、内閣の権限や議院内閣制のしくみ、司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割、違憲審査権、裁判員制度について理解している。	15	
				○	日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。		
				○	裁判員制度の意義と課題について協働的に考察し、適切に表現している。		
				○	地方自治の本旨、地方自治の政治・経済的な課題について理解している。		
	7, 8	第2編 現代日本の経済 1章 現代の経済社会		○	地方がかかえる課題の概要を理解したうえで、身近な地域の人口動向や防災面での課題を探究している。	15	
				○	人口動向が地域に及ぼす影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		
				○	選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。		
				○	生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。		
				○	資本主義経済と社会主義経済の特徴、市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。		
				○	需要と供給により価格と生産量が変化することを理解している。		
後期	9, 10	2章 現代の日本経済と福祉の向上 第3編 現代日本における諸課題の探究		○	株式会社の仕組みについて、株主と経営者の関係を理解している。	16	
				○	企業の社会的責任や法令順守の姿勢について主体的に追究して、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
				○	景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。		
				○	中央銀行の役割や金融政策の目的と手段、財政に求められる機能について理解している。		
	10, 11	第2部 現代の国際政治・経済 第1編 現代の国際政治 1章 国際政治の動向と課題		○	日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳出減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究している。	3	
				○	日本経済における中小企業の構造的な課題について、大企業との関係や国際化の観点から多面的・多角的に考察している。		
				○	消費社会の拡大や過度な宣伝等について問いを見出し、消費者主権や消費者の権利の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。		
				○	日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。		
				○	労働基本権と労働三法の内容について理解している。		
				○	なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。		
後期	12, 1	第2編 現代の国際経済 1章 国際経済理論 2章 国際経済の動向と課題		○	よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。	3	
				○	社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。		
				○	日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点に立ちながら考察し、適切に表現している。		
				○	日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、日本における持続可能な福祉社会の実現を探究するための意欲を高めている。		
	1	第3編 国際社会における諸課題の探究		○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。	3	
				○	よりよい社会の実現のために、現代日本の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。		
				○	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解している。		
				○	国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。		
				○	国際社会における法の支配について主体的に追究し、各国の国益を超えた問題解決に向けて意欲的に考察している。		
				○	貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解している。		
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	3		
			○	国際社会における貧困と格差の解消について主体的に追究し、JICAによる支援活動などについても興味を持ち、それらの課題を意欲的に解決しようとしている。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1	第3編 現代の国際政治 1章 現代の国際政治 2章 現代の国際経済		○	よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	3		
			○	社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。			
12, 1							

科目名	数学B		履修学年	第3学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	数学A Essence (東京書籍)			
使用教材 (出版社)	Essence Buddy CATCH 数学A (東京書籍)			
学習の目標				
数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
教科担当者から				
・教科書・ワーク・プリントを中心に授業を進める。必ず，毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り，授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので，ファイルに整理し，提出できるようにしておくこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察				○
提出物		○		○
小テスト 単元テスト	○	○		
定期考査	○	○		
振り返りシート				○
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション					1
	5	1章 数列					
		1節 数列					
		1 数列と一般項	○		○	数列の表し方や一般項の意味を理解し、数列の各項や、数列の一般項を求めることができる。	4
		2 等差数列		○	○	等差数列について理解し、その一般項や和を求めることができる。また、いろいろな自然数の和の考察に、等差数列の和の公式を活用することができる。	5
		3 等比数列	○	○			5
		Training、単元テスト①	○	○	○		1
		6 (前期中間考査)	○	○	○		1
		2節 いろいろな数列					
		1 いろいろな数列の和	○	○		記号 Σ を用いた和の表し方や の性質を理解し、自然数の和の公式や自然数の 2 乗の和の公式を利用して、いろいろな数列の和を求めることができる。	6
		2 階差数列	○	○		階差数列からもとの数列の一般項を求める方法を理解し、一般項を求めることができる。	3
		3 少し複雑な数列	○	○	○	数列の和から一般項を求めることや、分数で表された数列の和を求めることができる。	3
		Traininn、単元テスト②	○	○	○		1
	7	3節 漸化式と数学的帰納法					
		1 漸化式	○	○	○	漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表すことや、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。	4
		2 数学的帰納法		○	○	数学的帰納法について理解し、自然数の性質などを数学的帰納法を用いて証明することができる。	3
		Training、単元テスト③	○	○	○		1
	8	(前期期末考査)	○	○	○		1
後期	9	2章 統計的な推測					
	10	1節 確率分布	○		○		
		1 標本調査	○			標本調査の考え方について理解を深める。	1
		2 確率変数と確率分布	○			確率変数と確率分布について理解し、確率分布を求めることができる。	3
		3 確率変数の平均	○	○		確率変数の平均について理解し、確率分布からその確率変数の平均を求めることができる。	3
		4 確率変数の分散・標準偏差	○	○		確率変数の分散及び標準偏差について理解し、確率分布からその確率変数の分散及び標準偏差を求めることができる。	4
		5 二項分布	○	○	○	二項分布について理解し、二項分布に従う確率変数の平均、分散、標準偏差を求めることができる。	4
		6 連続した値をとる確率変数の分布	○			連続型確率変数の確率分布について理解し、確率密度関数から確率を求めることができる。	2
		7 正規分布	○	○	○	正規分布や標準正規分布について理解し、正規分布表を用いて確率を求めることができる。また、身近な問題を正規分布を用いて考察すること	5
		8 二項分布の正規分布による近似	○			正規分布で近似することにより、二項分布の確率を求めることができ	2
		Training、単元テスト④	○	○	○		1
	11	(後期中間考査)	○	○	○		0
	12	2節 統計的な推測					
		1 標本平均の分布	○	○	○	標本平均の分布と母集団の分布の関係について理解している。	4
		2 母平均の区間推定	○	○	○	母平均の区間推定の方法を理解し、母平均に対する信頼区間を求めることができる。	4
		3 統計的仮説検定	○	○	○	正規分布を用いた仮説検定の方法を理解し、主張の妥当性について、仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察することができる。	2
		training、単元テスト⑤	○	○	○		1
		3章 数学と社会生活					
		1節 数学と社会生活					2
		1 およその数量を推定する	○	○	○	実際に調査することが難しい数量を、フェルミ推定を使って推定することができる。	2
		2 変動の激しいデータを扱う	○	○	○	変動の激しいデータの長期的な傾向を移動平均のグラフから読み取ることができる。	2
		3 散布図に表したデータを関数として見る	○	○	○	特定の値によって影響を受ける値の分布を散布図で表し、近似曲線をかいてその傾向を調べることができる。	2
	1	4 最終的な状態を予測する	○	○	○	互いに影響しあう 2 つの量が時間とともに変化する様子について、数学	2
		5 区域の境界線を定める	○	○	○	ポロノイ図について理解し、ポロノイ図を使って平面上に区域の境界線を定めることができる。	2
		単元テスト⑥	○	○	○		1
		(学年末考査)	○	○	○		1
		防災学習	○	○	○		1

科目名	数学Ⅱ		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	数学Ⅱ　E s s e n c e　（東京書籍）			
使用教材 (出版社)	E s s e n c e　B u d d y　C A T C H　数学Ⅱ（東京書籍）			
学習の目標				
指数関数・対数関数や、微分と積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科担当者から				
・教科書・ワーク・プリントを中心に授業を進める。必ず、毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り、授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので、ファイルに整理し、提出できるようにしておくこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規　準	・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	○　重視するところ			
学習の状況の 観　察			○	
提出物		○	○	
単元テスト	○	○		
振り返りシート			○	
観点別学習評価基準　A：十分満足できる状況　　B：概ね満足できる状況　　C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション					1
	5	4章 指数関数と対数関数					
		1節 指数関数					
		1 指数の拡張	○	○		指数を整数へ拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて、計算することができる。	2
		2 累乗根	○	○		累乗根の意味を理解し、計算することができる。また、指数を有理数へ拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて、計算することができる。	3
		3 指数関数とそのグラフ	○	○	○	指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。また、指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	3
		4 指数関数の利用		○	○	身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。	2
		単元テスト①	○	○	○		1
	6	(前期中間考査)					0
		2節 対数関数					
		1 対数	○	○		対数の意味を理解し、対数の値を求めることができる。	2
		2 対数の性質	○	○		対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。	3
		3 対数関数とそのグラフ	○	○	○	対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。また、対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	3
		4 常用対数	○	○		常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを用いて、整数の累乗の桁数を求めることができる。	2
		5 対数関数の利用		○	○	身近な問題を解決することに、対数関数を活用することができる。	2
		単元テスト②	○	○	○		1
	7	5章 微分と積分					
		1節 微分係数と導関数					
		1 平均変化率	○	○		関数の平均変化率が、曲線上の2点を通る直線の傾きに等しいことを理解し、平均変化率を求めることができる。	2
		2 微分係数	○	○		極限值や微分係数の意味を理解し、微分係数を定義に基づいて求めることができる。また、微分係数を利用して、接線の傾きを求めることができる。	3
		3 導関数	○	○		導関数の意味を理解し、導関数の計算ができる。また、導関数を利用して、微分係数を求めることができる。	3
		単元テスト③	○	○	○		1
	8	(前期期末考査)					0
後期	9	2節 導関数の応用					
	10	1 接線の方程式	○	○		曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。	2
		2 関数の増加・減少	○	○		導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。	3
		3 関数の極大・極小	○	○		関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めたり、そのグラフをかいたりすることができる。	3
		4 関数の最大・最小	○	○		ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。また、それを利用して身近な問題を解決することができる。	3
		5 方程式への応用	○	○		3次関数のグラフを利用して、3次方程式の実数解の個数を調べることができる。	2
		単元テスト④	○	○	○		1
	11	(後期中間考査)					0
	12	3節 積分					
	1	1 不定積分	○			不定積分の意味を理解し、公式を用いて不定積分を求めることができる。	3
		2 定積分	○	○		定積分の意味を理解し、公式を用いて定積分を求めることができる。	3
		3 定積分と面積	○	○		定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	4
		単元テスト⑤	○	○	○		1
		(学年末考査)					0
		防災学習		○	○		1

科目名	地学基礎		履修学年	第3学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	地基702 「地学基礎」 実教出版			
使用教材 (出版社)	「ビジュアルプラス地学基礎ノート」 実教出版			
学習の目標				
自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
教科担当者から				
地学基礎では、日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成します。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察	○	○	○	
課題の取り組み	○	○	○	
提出物			○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準									
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間		
			知	思	主				
前期	4	1章 地球の構成と運動 1節 地球の構造 1.地球の形と大きさ 2.地表のようす 3.地球内部の構造				○	・地球の形と大きさについて、どのような方法で調べたのか、また、実際の形や大きさはどのようなか、関心を持って意欲的に学習しようとする。	4	
						○	・2地点の緯度の差や距離について調べ、地球が完全な球ではないことを見いだせる。		
						○	・地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見いだし、地球内部の密度や層構造について説明できる。		
						○	・測定の歴史や方法をふまえて地球の形と大きさについて理解するとともに、地球内部の層構造とその状態および構成物質について理解している。		
						○	・プレートの分布や運動がどのように大地形の形成や地質構造と関わっているのか、関心を持って意欲的に学習しようとする。		
						○	・プレートの分布や移動から、プレート境界に見られる地形の特徴を見いだすことができ、大地形の形成とプレートの運動の関係について考察できる。		
						○	・世界の地震分布と火山の地震の分布がプレート境界に対応することを見いだし、プレートの運動によって地震活動や火山活動がもたらされることを理解している。		
						○	・変成岩が形成される過程を理解し、主な変成岩の特徴を判断できる。		
						○	・岩盤にどのような力が加わると褶曲や断層が形成されるのか、実験を通して考察することができる。		
						○	・プレートの分布やプレート境界について理解するとともに、プレートの運動によって大地形が形成されることを理解している。		
						○			
						○			
	6	前期中間考査	1章 地球の構成と運動 3節 地震と火山 1.地震活動 2.火山活動	○	○	○	○	・火山活動や地震発生の仕組みについて関心を持ち、その分布や原因・災害などについて意欲的に学習しようとする。	1
							○	・日本列島付近のプレート分布から、地震の分布とプレートの分布の関係について考察することができる。	
							○	・プレート境界地震とプレート内地震の発生の仕組みを理解し、それぞれなぜ地震が起こるのかプレート運動をもとに表現することができる。	
							○	・地震のデータをもとに、震源を探る方法、地下の様子を探る方法などについて習得し、結果を図や表を用いて表現できる。	
7	2章 大気と海洋 1節 大気の構造と運動 1.高度による気圧・気温の変化 2.大気の層構造 3.大気中の水とその状態 4.大気の状態		○	○	○	○	・日本列島付近のプレート分布から、火山の分布とプレートの分布の関係について考察することができる。	7	
						○	・砂や火山灰から鉱物を識別する実験や、火成岩などの観察の技能を習得し、組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類することができる。		
						○	・火山活動や地震について基本的な知識を身につけるとともに、それらの現象がプレート運動と深く関連していることを理解している。		
						○	・気温や気圧が高度とともに変化することや大気の層構造について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。		
						○	・資料をもとに、高度と気圧の関係や高度と気温の関係を示すグラフを作成し、鉛直方向の気圧や気温の変化の特徴を見いだすとともに、大気の層構造が何をもちに分けられているのか考察することができる。		
						○	・乾球温度と湿球温度による湿度測定の実験を習得するとともに、この方法で湿度が測定できる理由について考察することができる。		
						○	・雲の形成に必要なものを、実験を通して説明することができる。		
						○	・大気の層構造について理解するとともに、各層の特徴や観測される現象について説明することができる。（定期考査）		
						○			
						○			
						○			
			8	前期末考査	2章 大気と海洋 2節 大気の大循環 1.地球のエネルギー収支 2.大気エネルギー収支 3.大気大循環 4.温帯低気圧と熱帯低気圧 3節 海洋の構造と海水の運動 1.海洋の層構造 2.海水の運動と循環 4節 日本の四季の気象と気候 1.気象と気候 2.日本の四季	○	○		○
						○	・大気と海洋の大循環によって地球規模で熱輸送が行われていることについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。		
						○	・赤外面像やグラフより大気や地表から放射が行われていることを読み取り、説明することができる。		
						○	・緯度とエネルギー収支の関係を表すグラフから、低緯度では太陽放射の受熱量が大きく、高緯度では地球放射の放射量の方が大きくなっていることを読み取り、低緯度から高緯度に向かって地球規模で熱が輸送されていることを見い出すことができる。		
						○	・緯度による受熱量の違いから、ハドレー循環や貿易風、偏西風などが形成されることを理解するとともに、地球規模の大気の大循環について系統立てて説明することができる。		
						○	・日射量の測定方法を習得し、その過程や結果を適切に表現することができる。		
						○	・海水温の鉛直分布の図から、海洋の表層と深層で水温が違うことについて考察することができる。		
						○	・海水が地球規模で循環していることを理解し、この循環や海流が地球規模の熱輸送において果たす役割について説明することができる。		
						○	・各季節の典型的な天気図や衛星画像からそれぞれの季節の特徴を適切に読み取ることができる。		
						○	・大気と海洋の大循環について理解するとともに、それらの地球規模の流れと緯度による太陽放射の受熱量の変化などから、地球規模で熱が輸送されていることを理解している。（定期考査）		
						○			
9	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 1節 宇宙の誕生 1.宇宙の姿 2.天体の距離と光の速さ 3.ビッグバンから天体の誕生まで 2節 太陽の誕生 1.現在の太陽 2.太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長 1.太陽系の姿 2.太陽系の誕生と惑星の分類 特集 太陽系の天体 3.地球の誕生と成長								○
						○	・地球が誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程について関心を持ち、太陽系における地球について科学的な見方・考え方を身につけようとする。		
						○	・宇宙が約138億年前に誕生し、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の暗れ上がるまでの過程を理解している。		
						○	・太陽が自転していることや自転周期が緯度によって異なることについて、黒点の位置の観測を通して考察し、適切に表現することができる。（課題提出）		
						○	・太陽系の惑星の特徴を理解し、地球型惑星と巨大ガス惑星、巨大水惑星の違いについて、その形成過程の違いから説明することができる。（発展評価）		
						○	・地球が生命を生み出す条件を備えていることを、太陽からの距離や水が液体として存在できる環境、原始大気が形成されたことなどから総合的に判断して考察し、表現することができる。（発展評価）		
						○	・宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について一連の流れを理解するとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解している。		
						○	・地形や地層、化石について意欲的に観察や実験を行い、それらが作られた環境や原因を学び、地球の歴史を解き明かす方法とその特徴を学習しようとする。		
						○	・砕屑粒子の堆積する様子を観察し、河川によって形成される地形について考察し適切に表現できる。		
						○	・堆積岩を適切に観察する技能を習得し、結果や考察を的確に表現できる。		
						○	・堆積構造や地質構造を観察することで、堆積当時の環境や生じた地殻変動について適切に推定することができる。		
						○	・地形や地層の観察方法を習得し、観察結果に基づき、地質年代や堆積環境、過去の地殻変動について適切に推定することができる。		
			○	・化石の観察方法を習得し、観察結果に基づいて古生物の特徴を適切に考察することができる。					
10	4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層のつき方 1.地層のつき方 2.堆積岩 3.地層を調べる 2節 化石と地質時代の区分 1.化石 2.地層の対比と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球環境 1.初期生命と大気の変化 先カンブリア時代 2.多様な生物の出現と脊椎動物の発展 古生代～中生代 3.哺乳類の繁栄と人類の発展					○	・地球環境の変化に関する資料に基づき、地質時代を通して生物の活動が大気や水に与えた影響や、大気の変化が生物に与えた影響について見いだすことができる。	7	
						○	・地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。		
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
後期	後期中間考査	5章 地球の環境 1節 日本の自然環境 1.日本列島がつくる自然の特徴 2.さまざまな自然災害と防災・減災	○	○	○	○	・日本の自然環境がもたらす災害と恵恩について関心をもち、意欲的に学習しようとする。	1	
						○	・自然災害の起きる状況を理解し、災害リスクを減らすための、科学的な見方・考え方を身につけようとする。		
						○	・自然災害の起きる原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。		
						○	・ハザードマップなどを調査検討する技能を習得し、災害リスクを的確に表現できる。		
						○	・日本列島における自然環境の特徴について理解し、自然環境の恵恩と自然災害のリスクについてを理解している。		
						○	・地球規模の自然環境やそこで起きている環境変化について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。		
						○	・資料やデータに基づいて世界の平均気温の変化や二酸化炭素濃度の変化を見いだし、地球温暖化の原因について適切に考察することができる。		
						○	・エルニーニョ現象やオゾンホールが発生する仕組みについて理解するとともに、それらの現象がもたらす影響について理解し、適切に説明できる。		
						○	・異常気象によって発生する災害について理解するとともに、被害を減らすための方法について考察し、適切に表現することができる。		
						○	・地球環境に影響を及ぼしている人間活動について考察するとともに、現在の状況が続くことによる将来への影響について総合的に判断することができる。		
						○	・人間活動が地球環境に与えてきた影響について理解するとともに、持続可能な未来の実現のために人間ができることを考え、表現することができる。		
						○	・地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。		
11	5章 地球の環境 2節 地球環境の科学 1.人間がもたらす環境問題と自然変動 2.気候変動と地球環境問題 3.地球環境と物質循環 4.地球環境に与える人間生活の影響					○	・日本列島における自然環境の特徴について理解し、自然環境の恵恩と自然災害のリスクについてを理解している。	5	
						○	・資料やデータに基づいて世界の平均気温の変化や二酸化炭素濃度の変化を見いだし、地球温暖化の原因について適切に考察することができる。		
						○	・エルニーニョ現象やオゾンホールが発生する仕組みについて理解するとともに、それらの現象がもたらす影響について理解し、適切に説明できる。		
						○	・異常気象によって発生する災害について理解するとともに、被害を減らすための方法について考察し、適切に表現することができる。		
						○	・地球環境に影響を及ぼしている人間活動について考察するとともに、現在の状況が続くことによる将来への影響について総合的に判断することができる。		
						○	・人間活動が地球環境に与えてきた影響について理解するとともに、持続可能な未来の実現のために人間ができることを考え、表現することができる。		
						○	・地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。		
						○			
						○			
						○			
						○			
			12	学年末考査					
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			
						○			

科目名	体育【保健体育】	履修学年	第3学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	独自プリント等			
学習の目標				
1・2年次の経験を生かし自ら学ぶ種目を選択し、学習目標、課題解決方法を考えながら実践することで運動技能や理解を深めていきます。また、それらの学習経験を通して生涯を通じて継続的に運動を実践する資質や能力、公正・協力・責任などの態度を身につけていきます。				
教科担当者から				
仲間と協力して目標設定、学習計画などに取り組み、みなさんが主体的に授業を進めていきます。個人練習やグループワークなど学習方法はさまざまです。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	運動の特性に応じた技能を身につけ、習得した技能を発表したり、チームの作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、発表会や競技会の企画や運営の仕方を理解している。	自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫する。	練習やゲームで積極的に自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励ましあったりしようとするとともに、公正な態度をとろうとする。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○	○	○	
提出物	○	○	○	
技能試験	○			
筆記試験	○		○	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	体育理論「H」 集団行動 体づくり運動「A」 新体力テスト	○	○	○	14
5 6 7 8 9		選択Ⅰ（球技「E」）	○	○	○	7
		ダンス「G」	○	○	○	4
		陸上競技「C」 （強歩遠足の練習を含む）	○	○	○	8
後期		強歩遠足	○	○	○	2
	10 11 12 1	体育理論 選択Ⅱ（球技「E」）	○	○	○	9
		選択Ⅲ（球技「E」）	○	○	○	7
		スポーツ大会				8
		防災学習				1

科目名	英語コミュニケーションⅡ	履修学年	第3学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	4単位	
使用教科書 (出版社)	VISTA English Communication Ⅱ (三省堂)			
使用教材 (出版社)	プレッパイングリッシュ (3訂版) 高校英語の基礎作り (旺文社) ※継続使用 改訂第2版 キクタン【Basic】4000 (アルク)			
学習の目標				
プレッパイングリッシュ (3訂版) 高校英語の基礎作り (旺文社) ※継続使用 改訂第2版 キクタン【Basic】4000 (アルク)				
教科担当者から				
既習の学習内容を復習することから始めることで基礎・基本を固め、3学年の学習内容に無理なく進んでいけるように配慮しながら授業を進めていきます。学習意欲を高め、基礎・基本的な知識を重視し、「聞く」「話す(やりとり・発表)」「読む」「書く」の英語の4技能5観点のバランスよい向上をめざします。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		◎	◎	
課題の取り組み			◎	
提出物	◎		◎	
定期考査	◎	◎		
パフォーマンステスト	◎	◎		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合(%)	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準									
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点					学習のねらい（評価のポイント）	時間
			L	R	Sや	S発	W		
前期	4	ガイダンス							1
		1・2年生の復習			○		○		2
	5	Lesson 4 Designing Stamps						切手／英語学習／切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること／日本の切手についての紹介を書いて発表することができる。	9
			○	○		○	○	形式主語と形式目的語の使い方を確認する	4
		LESSON 5 Mont-Saint-Michel	○	○	○		○	モン・サン・ミシュル／趣味／日本の世界遺産についてやりとりしたり、過去の旅行先について書いて発表することができる。	11
			○	○			○	現在完了・過去完了の使い方を確認する。	4
	6	<前期中間考査>							1
	7	LESSON 6 Smart Agriculture	○	○	○		○	スマート農業／忘れられない経験／ポスターの感想／ドローンの危険性についてやりとりしたり、ロボットの活用場面について発表したり、ポスターの文言を書くことができる。	11
			○	○			○	現在完了形の受け身／助動詞＋受け身の使い方を確認する。	4
	8	LESSON 7 Martial Art on Tatami	○	○			○	競技かるた／アニメについてやりとりしたり、正月の風物について発表したり、日本のお土産について書くことができる。	12
			○	○			○	関係代名詞の非制限用法／関係代名詞whatの使い方を確認する。	5
	9	<前期期末考査>							1
		(パフォーマンステスト)							3
		(防災学習)							1
		LESSON 8 Biologging	○	○			○	バイオロギング／海の生き物／好きな食べ物についてやりとりしたり、学校内の出来事について書いたり、ペットの記録計について書いて発表したりすることができる。	8
後期	10	LESSON 8 Biologging	○	○			○	バイオロギング／海の生き物／好きな食べ物についてやりとりしたり、学校内の出来事について書いたり、ペットの記録計について書いて発表したりすることができる。	4
			○				○	分詞構文／強調構文の使い方を確認する。	7
	11	ENJOY READING! 1 The Open Window	○	○				ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語について、理解して考えを深めることができる。	8
					○	○	○	ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語について、続きを想像しながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。	3
		<後期中間考査>							1
	12	ENJOY READING! 2 The Christmas Truce	○	○				第一次世界大戦におけるクリスマス休戦の文章について、理解して考えを深めることができる。	8
					○		○	文章について、クリスマス休戦が私たちに伝えるメッセージを考えながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。	4
		総復習		○			○		5
	1	<学年末考査>							1
		(パフォーマンステスト)							2
	2								

科目名	論理・表現Ⅱ		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	NEW FAVORITE English Logic and Expression II（東京書籍）			
使用教材 (出版社)	改訂第2版 キクタン【Basic】4000（アルク）			
学習の目標				
一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え、立場や状況が異なる相手と交渉することができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、詳しく話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、詳しく書いて伝えることができる。				
教科担当者から				
「論理・表現Ⅰ」「話すこと[やりとり・発表]、書くこと』で得た知識を土台に、引き続き「英語を使って表現する」方法を学んでいきます。まず、教科書を用いながら、表現の基礎となる実用的な単語と文法を学びます。また、教科書で学んだことを活かしながら、個人やグループでの表現活動を行う予定です。調査だけではなく、単元テスト、パフォーマンステスト、活動への取り組み、発表の出来などを総合的に判断していきます。間違いを恐れず、楽しみながら英語を学んでいきましょう。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	〔知識〕 訂正する、心配する、感謝するときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕 学んだ知識を用いて、訂正する、心配する、感謝するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、発言や情報などを訂正したり、自分や相手について心配したり、相手に感謝したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、発言や情報などを訂正したり、自分や相手について心配したり、相手に感謝したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察		◎	◎	
課題の取 組 み			◎	
提出物	◎		◎	
定期考査	◎	◎		
パフォー マン ステ ス テ ス ト	◎	◎	◎	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	Sや	S発	W	学習のねらい（評価のポイント）	時間
前期	4	ガイダンス、1・2年生の復習			○	1・2年生の復習	2
		Lesson 1 友達に報告する	○	○	○	訂正する、心配する、感謝するときの表現	4
	5	LESSON 2 日本での初登校	○	○	○	驚く、繰り返す、言い換えるときの表現	4
		LESSON 3 経験についてのスピーチ	○	○	○	注意を引く、同意を求めるとき表現	4
	6	<前期中間考査>					1
		Lesson 4 ファンレター	○	○	○	望む、褒めるとき表現	4
	7	Lesson 5 イベントに誘う	○	○	○	誘う、説明するとき表現	4
	9	<前期期末考査>					1
		(パフォーマンステスト)					1
		(防災学習)					1
		Lesson 6 図書館で資料さがし	○	○	○	聞き直す、依頼するとき表現	4
後期	10	Lesson 7 翻訳についてのスピーチ	○	○	○	要約する、言い換えるときの表現	4
		LESSON 8 通信販売で返品依頼	○	○	○	困ったことを伝える・説明する、控えめに依頼する表現	4
		<後期中間考査>					1
	11	Lesson 9 タクシーに乗る	○	○	○	依頼する、提案するとき表現	4
		Lesson 10 友達とディスカッション	○	○	○	仮定する、反対するとき表現	4
	12	Lesson11 比較結果のプレゼンター	○	○	○	報告する、比較して説明するとき表現	4
		Lesson12 就きたい職業	○	○	○	説明する、理由を述べる、仮定するとき表現	4
	1	(パフォーマンステスト)					2
		<学年末考査>					1
		総復習	○	○	○		2

科目名	ビジネス基礎		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	ビジネス基礎（実教出版）			
使用教材 (出版社)	事例探究ワークブック　ビジネス編 全商ビジネス計算実務検定　模擬問題集3級			
学習の目標				
商業を学ぶ目的や、ビジネスの諸活動の意義や役割など基礎的な知識と技術を習得させるとともに、経済社会の一員として必要とされる望ましい人間関係、社会性及び倫理観など豊かな人間性を身に付けさせ、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。				
教科担当者から				
この科目は単に知識や技術の習得に留まらず、新聞、放送、インターネットなどの活用、経済活動の具体的な事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察などを通して、経済社会の動向に着目できるような授業展開を含め、商業の学習と職業との関連、卒業後の就職先や進学先などの進路についてのガイダンスも行うような授業展開を考えている。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	商業を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、ビジネスに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。	ビジネスに関する諸問題を経済生活との関連からの確に把握し、自ら考察を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	ビジネスの諸活動に広く関心をもち、その意義や役割の理解及び諸問題の探求を目指して、主体的に学習に取り組むとともに経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身に付けている。	
評価方法	○　重視するところ			
学習の状況の観察		○	○	
課題の取り組み		○		
提出物	○	○	○	
定期考査	○			
観点別学習評価基準　A：十分満足できる状況　B：概ね満足できる状況　C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85％以上	84～70％	69～45％	44～30％	29％以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	○		・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスの概要について理解している。	3
				○	・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。	3
					○ ・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	3
	6	第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用	○		・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	3
				○	・ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。	3
					○ ・情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	3
		前期中間考査				1
	8	第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	○		・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。	3
				○	・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	3
			○		・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。	2
		前期期末考査				1
後期	10	第4章 さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業		○	・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。	3
				○	・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	3
					○ ・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。	3
	11	第5章 企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割	○		・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	3
				○	・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	3
					○ ・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	3
		後期中間考査				1
	2	第6章 ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済	○		・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	4
				○	・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	4
					○ ・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	4
		防災学習			防災について、ビジネス基礎の観点から学習する。	1

科目名	マーケティング		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	マーケティング（実教出版）			
使用教材 (出版社)	事例探究ワークブック 観光・地域活性化編			
学習の目標				
(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教科担当者から				
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指します。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	答えがないことの多い経済社会にあつて、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、企画の実施などに責任をもって取り組んでいる。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観察			○	
課題の取 組 み		○		
提出物			○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント	○			・マーケティングを学ぶ意義を理解している。	7
					○	・マーケティングの意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。	
	6	第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因	○			・マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について理解している。	7
				○		・購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。	
					○	・消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる	
		前期中間考査	○				1
	8	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法	○			・市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	7
					○	・市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
					○	・市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析することができる。	
	9	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	○			・STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	7
			○		・STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
				○	・STP分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。		
	前期期末考査	○				1	
後期	10	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	○			・製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。	7
					○	・製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。	
						・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
	11	第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	○			・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	7
					○	・価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。	
					○	・価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
		後期中間考査	○				1
	12	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	○			・チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。	7
					○	・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。	
					○	・チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
		第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	○			・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。	7
				○	・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。		
				○	・プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
	防災学習			○	・防災をマーケティングの視点から主体的に学習することができる。	1	

科目名	フードデザイン	履修学年	第3学年	
		履修形態	選択	
		履修単位	3単位	
使用教科書 (出版社)	フードデザイン cooking&arrangement（教育図書）			
使用教材 (出版社)	な　　し			
学習の目標				
・栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。 ・地域活性化のため、地元の特産品を活かしたレシピ開発に取り組み、活動を通じて地域との交流を図る。				
教科担当者から				
・栄養学や調理学などに通じる基礎的な知識を学ぶ。 ・地元食材を使ったレシピ開発に挑戦し、地域活性化を目指す。 ・食物調理技術検定3・4級取得を目指す。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規　準	・栄養、調理に関する基本的な知識を身に付けることができたか。 ・地元の特産品を活かしたオリジナルレシピを考え、試作することができたか。 ・食物調理技術検定取得に向けて技能を身に付けることができたか。 ・班員と協力し調理実習を行うことができたか。	・地域の郷土料理や世界の料理を比較し、新たなレシピを考案することができたか。 ・食生活を総合的に捉え、課題を見出し食育推進のために創意工夫した表現や能力を身に付けたか。	・地域活性化のため意欲的にレシピ開発に関わろうとしているか。 ・食生活に関する諸問題に関心を持ち、自分の食生活を振り返られているか。	
評価方法	○　重視するところ			
学習の状況の観察	○		○	
実習の取り組み	○		○	
グループワークへの取り組み	○	○	○	
提出物	○	○	○	
観点別学習評価基準　A：十分満足できる状況　　B：概ね満足できる状況　　C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	フードデザインを学ぶにあたって			○	・学習の意義を理解し、目的意識をもつ。	1
		食物調理検定 4 級筆記対策	○		○	・食物調理検定 4 級取得のための知識を身に付ける。	39
	5～6	【栄養教諭 講義①】 ・地元食材を知る 【行者にんにく実習 実習①】 【潮干狩り実習 実習②】	○		○	・地元食材について体験的に学び、地元食材を使用した調理を実践する。	
	7～8	食物調理検定 4 級実技対策 【食物調理検定 4 級】 地元食材を使ったレシピ開発① (給食メニュー開発・ふるさと納税返礼品開発・お祭り出店・商品開発の 4 グループで活動) 町民畑で野菜を育てる①	○		○	・食物調理検定 4 級取得のための技術を身に付ける。	
後期			○	○	○	・これまでに習得した栄養・食品に関する知識をいかして、地元食材を使ったレシピを作成する。	38
			○		○	・町民畑で主体的に野菜を育て、地産地消の意識を高める。	
			○	○	○	・ふれあい加工体験センターで、地元食材について学ぶ。	
	9～11	食物調理検定 3 級筆記対策 町民畑で野菜を育てる②	○		○	・食物調理検定 3 級取得のための知識を身に付ける。	
			○		○	・町民畑で主体的に野菜を育て、地産地消の意識を高める。	
		食物調理検定 3 級実技対策	○		○	・シュガーセミナーを通して、砂糖について学ぶ。	
		・地産地消を学ぶ 【収穫した野菜で調理実習 1 実習③】 【収穫した野菜で調理実習 2 実習④】	○		○	・食物調理検定 3 級取得のための技術を身に付ける。	
			○		○	・町民畑で育てた野菜を使って、調理を行う。 ・地産地消の意識を高める。	
		【食物調理検定 3 級】 地元食材を使ったレシピ開発② 試食会の実施	○	○	○	・地元食材を使ったレシピを開発する。 ・グループ内で活発な意見交流のうえ、レシピ開発に取り組む。 ・グループで協力し合い、試作品の調理を行う。	
			○	○	○	・鮭の解体実習で鮭の捌き方を学び、鮭を使った調理を行う。 ・ホタテの捌き方実習で、ホタテの捌き方を学び、ホタテを使った調理を行う。 ・郷土料理について知り、郷土料理の調理法を学ぶ。	
	12～1	・お菓子作りについて 【クッキー作り 実習⑦】	○	○	○	・小麦粉を使用したお菓子作りについて学び、調理する。	12
		地元食材を使ったレシピ開発③	○	○	○	・地元食材を使った調理を行い、地域の方々に試食してもらう。	
		・行事食について 【クリスマスケーキ作り 実習⑧】 【石垣島小学生とのオンライン交流】	○	○	○	・行事食について学び、クリスマスケーキを調理する。	
		防災学習	○	○	○	・沖縄県石垣市の小学生とのオンライン交流を通じて、標津町について知ってもらい、標津町の特産であるホタテの捌き方を伝える。	

科目名	生涯スポーツ		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	なし			
使用教材 (出版社)	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）			
学習の目標				
○生涯スポーツに関する知識と技能を身につける。 ○スポーツと健康に関する豊かな思考力と創造性を持って、課題を発見・解決する力を身につける。 ○異なる分野にも適応し、柔軟な感性でコミュニケーションする力を身につける。 ○「人」や「環境」に配慮した持続可能な生涯スポーツ社会の実現に貢献するための知識とマインドを身につける。 ○スポーツにおける「楽しさ」を探求し、それを仲間と分かち合い、人生を豊かにするスポーツの価値を広く啓発できる能力と姿勢を身につける。				
教科担当者から				
・運動の技能や体力の向上を図るとともに、仲間とのふれあいの中で「気づき」を大切にし、さまざまな運動への取り組み方や、審判法、ゲームの運営方法などを学んでいきます。 ・スポーツへの取り組みには「おこなう」、「みる」、「しらべる」、「ささえる」などの方法があります。豊かなライフスタイルを作り上げていく中で、自分なりのスポーツの取り組み方を見つけましょう。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	運動の特性に応じた技能を身につけ、習得した技能を発表したり、チームの作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、発表会や競技会の企画や運営の仕方を理解している。	自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫する。	練習やゲームで積極的に自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励ましあったりしようとするとともに、公正な態度をとろうとする。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察	○	○	○	
課題の取り組み	○	○		
提出物	○	○	○	
技能試験	○			
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）
			知	思	主	
前期	4～9	○オリエンテーション ○体づくり運動 ○アダブテッドスポーツ ニューススポーツ ユニバーサルスポーツ ○球技（選択） （バスケットボール、サッカー、ラグビー、バレーボール、卓球、テニス、バドミントン等） ○スポーツ創作活動 ○模擬授業（成果発表）	○	○	○	・各種目の専門的な理解と高度な技能を習得する。 ・ルールを理解し、練習やゲームの仕方を工夫して実践する。 ・自分の役割を果たし、仲間と協力して課題解決に取り組む。 ・主体的、合理的、計画的に実践することで、自己の課題を解決できるようにする。
						30
後期	10～3	○球技（選択） （バスケットボール、サッカー、ラグビー、バレーボール、卓球、テニス、バドミントン等） ○スポーツ創作活動 ○模擬授業（成果発表）	○	○	○	・各種目の専門的な理解と高度な技能を習得する。 ・ルールを理解し、練習やゲームの仕方を工夫して実践する。 ・自分の役割を果たし、仲間と協力して課題解決に取り組む。 ・主体的、合理的、計画的に実践することで、自己の課題を解決できるようにする。
						29
		防災学習				1

科目名	自然科学探究		履修学年	第3学年
			履修形態	選択
			履修単位	4単位
使用教科書 (出版社)				
使用教材 (出版社)				
学習の目標				
自然科学に関する課題解決のために必要な資質・能力を教科横断的に養い、課題の設定、仮説から検証までの過程から探究力の育成を目指す。				
教科担当者から				
科学的思考、科学的分析、様々な体験活動から探究課題を設定し、仮説を立てて実証していくまでの過程を学習します。何事にも粘り強く、好奇心と感謝の心を大切に授業に臨んでください。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	設定した課題に対し、探究活動を行う事ができた。 今までの学習を活かし、自ら調査を行う事で技能を身につけ、事象を分析し、探究した結果をまとめ、発表するための技能が身に付けている。	多角的、複合的に事象を捉え、課題を設定し、数学的な手法や科学的な手法などを用いて思考判断する力を見に付けている。 探究の過程を遂行させ、探究した結果を考察することができる。	様々な事象や課題に知的的好奇心をもって向き合い、興味・関心に基づいて課題を設定し、粘り強く考え行動し、探究の過程を成し遂げる為に挑戦しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○			
課題の取 組 み		○	○	
提出物		○	○	
定期考査				
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	オリエンテーション			○ 授業の概要と今後の予定	1
	4	探究課題設定	○	○	グループ分け、探究課題振り返り	8
		継続的な活動			○ ソバ栽培、キノコ管理	4
	5	探究課題設定			適切な課題設定行い、探究活動の計画を立てる	8
		探究活動	○	○	調査研究	12
	6	継続的な活動			○ ソバ栽培	4
		中間考査				
		探究活動	○	○	調査研究	8
	7	継続的な活動			○ ソバ栽培	4
	8	探究活動	○	○	データ処理等	8
		探究活動	○	○	中間報告へのまとめ	16
	9	継続的な活動			○ ソバ栽培	4
後期	10	探究中間振り返り	○	○	探究活動の中間報告	7
		探究活動	○	○		10
	11	探究まとめ	○	○		16
	12	探究まとめ	○	○	発表練習	8
1		探究発表会		○	○ 発表会	2

科目名	ホームルーム活動	履修学年	第3学年							
		履修形態	必修							
		履修単位	1単位							
使用教科書 (出版社)	なし									
使用教材 (出版社)	なし									
学習の目標										
(1) 生徒一人一人が学級の役割を分担し、話し合いや委員会活動を通して、学級生活や学校生活の向上に努める態度を育てる。 (2) 好ましい人間関係を基盤に生徒一人一人の個人的、社会的適応を図り、自己を生かす能力を育てるとともに、心身ともに健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。 (3) 学業生活について、個別的、継続的な指導を行い、自主的に学ぼうとする意欲や態度を育てるとともに、よりよい将来の生き方と適切な進路を選択する能力を育てる。										
学習内容及び評価基準										
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい				評価の観点			時間
前期	4	始業式後 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (HR開き)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (進路)	学業と進路							1
	5	生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (進路)	学業と進路							1
		スタディサプリ振り返り	学業と進路							1
		学祭オリエンテーション	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
	6	学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
	7	学級裁量 (進路)	学業と進路							1
		進路 キャリアパスポート	学業と進路							1
夏期休業前 LHR		ホームルームづくり・学校の生活づくり							1	
後期	8	夏期休業明け LHR 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (考査)	学業と進路							1
		学級裁量 (進路)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (進路)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
	9	HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		後期始業式後 頭髪服装	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		スタディサプリ振り返り	学業と進路							1
		生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
	11	スポーツ大会原案審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		スポーツ大会選手決め	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		冬期休業前 LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		冬期休業明け 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
	1	学級裁量 (レク)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
		学級裁量 (レク)	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1
2	卒業式予行	ホームルームづくり・学校の生活づくり							1	
										30

科目名	総合的な探究の時間	履修学年	第3学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	1単位	
使用教科書 (出版社)	なし			
使用教材 (出版社)	プリント等			
学習の目標				
(1) 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。				
(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や学習活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。				
教科担当者から				
第3学年の総合的な探究の時間では進路活動が中心となります。7月までに実施を予定している進路講話や出前授業をはじめ、進路実現を達成するための活動をしていきます。上記を含め、さまざまな活動を通して、問題解決能力や協調性等を高めていけるよう頑張っていきましょう				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察	○	○	○	
課題の取り組み	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査				
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	総探オリエンテーション		○	○	自己の進路選択に必要な情報を理解し、今後の学習計画を立てることができる。	1
	5	探究活動（自己振り返り）		○	○	志望理由書に必要な要素を理解し、自分の考えを明確に表現できる。	1
	6	進路活動（自己表現）	○	○		面接に必要な基本マナーや受け答えの技術を習得し、自信を持って表現できる。	1
		進路探究活動（将来を学ぶ）	○			履歴書の基本構成や重要ポイントを理解し、正確に読み取る力を養う。	4
		キャリア講話			○	社会で働くことの意義や多様なキャリアパスについて考え、自分の進路への視野を広げる。	1
後期	8	進路探究活動（自己表現）		○	○	実践的な面接練習を通じて、自信を持った自己表現と適切なマナーを身に付ける。	4
	10	総合探究活動（地域）			○	地域社会について調査し、社会との関わりを考える力を養う。	6
	11	総合探究活動			○	防災に関する知識を習得し、自分や地域の安全を守る意識を高める。	5
		年金セミナー			○	年金制度の基本的な仕組みを理解し、将来に向けた意識を持つ。	1
	12	ビジネスマナー講座			○	社会人として必要な基本的なビジネスマナーを習得する。	2
	12	スーツ着こなし講座			○	TPOに応じたスーツの着こなし方を理解し、適切な服装を選ぶように	2
	12	働くことについて考える講座			○	働くことの意義や社会的役割について深く考え、自分の将来像を描く力を養う。	1
	12	税金講座			○	税金の基本的な仕組みと役割を理解し、社会人としての責任を自覚す	1